

持駒 桂香香香香

【PWC】取られた駒は(二歩や行き所の無い駒になる場合を除き)取った駒が元あった場所に復活する。(細則は出題稿を参照)

【ステイルメイト】王手は掛かっているが、合法手のない状態にする。

☆例外はあるもの、基本的に駒が消えないルールであるPWC。駒を全部捨てていくという単純な戦略ではステイルメイトにできません。持駒が多いので、自駒をピンする筋も使えません。

☆従って、自駒で自駒の移動先を封鎖するか、移動先の駒を取ったときに逆王手が掛かるようにする筋を探すこととなります。

☆例えば「37香、36金、35香同金/36香」のような手順を行えば、香が重なって後ろの香の移動先が封鎖できません。この要領で4枚の香を重ねて、更に先端の香の行き先を桂で封鎖すると持駒の封鎖が可能になります。桂を33に来る形にすれば、その桂は盤上に置いてある2枚の角のため動けないのです(逆王手が掛かる!)。☆ただ、これだけでは16桂の封印ができません。ここが最後の難関です。福高将棋部「香4枚の封じ方はすぐ分かったが、桂の封

じ方が分からなかった。飛を成らせるのがポイント! 真T「最初後手37飛から始めてしまい11手。そういえば先手からでした。成らせるのがうまいですね。

☆最初に2手の交換を入れて36の位置から飛を成らせるのが最後の難関を突破する解決策でした。こうしてステイルメイトが達成された図がこちらです。

達成図

作者「16桂がないと2手目金合の10手で9手目非限定。これの解消のために飛成らせを入れた。長年やっていた

ればこういうこともある。☆作者にとつて気持ちが良い発見は、解答者にとつても気持ちが良い発見。作者と解答者でこうした「発見」の共有体験ができるのが、詰将棋の醍醐味ですね。

③PWCばか詰13手 たくぼん

持駒 なし

作者「狙いは龍の筋遮断の為13手。47金、38玉、37金、同歩成/36金、同金/36と、48玉、47金、38玉、48金、27玉、38金、18玉、28金/38歩迄

の、歩の成らせ」です。

☆今回最も多くの正解者が出た問題。PWCの特徴を活かした明快な構想で、その魅力を伝えることに成功しました。

☆この作品の狙いを理解するために、作意の最初の6手を省略して手順を進めてみましょう。すると、最後の28金ときに歩が38に復活せず(36歩があるため二歩禁!)、持駒になつて盤上から消えてしまいます。そのため、同龍寄/68金とさされて不詰となります。

真T「36歩は邪魔駒! 成られば邪魔駒ではなくなるのですね。面白いです。小峰耕希「格言「駒を取らないのが詰将棋」。

☆今回特集した「日本式PWC

C」は駒が取れることが特徴なのですが、ルール設定の逆を行きたがるのが詰将棋作家の常。本局では、楽に駒が取れるのに、苦勞して駒を取らないようにしなければいけないのです。

☆また、PWCでは2手で「成らせ」を実現することが可能ですが、本局では歩を成らせるのに6手も消費します。この観点からの短評もありました。

佐藤宣多「二歩禁にはすぐに気がついたが、47金のリフレインが盲点でした。

北村太路「と金への変換に手をかけるところに味がある。☆ちなみに、14歩の配置や、19が金ではなく龍になつて

いるのはいずれも余詰対策。各々がどう働いているか研

究すると、PWCの特徴が更によく分かると思います。④PWC成禁ばか詰33手 たくぼん

持駒 銀

25銀、23玉、34銀、32玉、43銀、41玉、52銀、同金/51銀、42銀、32玉、33銀、43玉、44銀、32玉、43銀、同金/52銀、41銀、23玉、32銀、34玉、43銀/32金、23玉、34銀、12玉、23銀、同金/32銀、21銀、11玉、12銀、22玉、23銀/12金、11玉、22銀迄33手。

【成禁】詰手順中、駒を成る

手があつてはならない。作者「詰上り型は1つしかないでそこに持つていく手順を考える問題。真T「簡素な形から巧い手順。成禁でこんなに面白くなるとは!

☆銀追いPWCではとても実りのある分野で、現在のルールが提唱された比較的初期から創作されてきました。本局は銀追いを成禁の条件下で行うことにより、最小限の配置で解き応えのある手順を生むことに成功しています。

小峰耕希「序と最終形はこれしかないが、10・15手目で大苦戦。非限定が生じない順を探していったら、やっと解けた。

市村道生「金を斜めに移動さ

